

衆院予算委ドキュメント

2日の衆院予算委員会の主な論戦を時系列で追った。

「価格転嫁対策 取り組み」

10:20 自民党の今枝宗一郎氏が「カーボンニュートラル（脱炭素）を目指しながらも、（国内の）自動車産業を守るためにも軽々にEV（電気自動車）一辺倒の流れに乗るべきではない」と主張した。岸田文雄首相は「電気自動車も有力な選択肢の一つだが、多様な技術の選択肢を追求していくのが基本的な立場。国際競争においても有利な立場を築いていきたい」と語った。

10:40 原材料などの物価が上昇しているにもかかわらず中小企業が価格に転嫁しづらい状況について、公明党の国重徹氏が質問。山際大志郎経済再生相は「1月から3月を転嫁対策に向けた集中取り組み期間とし、公正取引委員会と中小企業庁が立ち入り調査や要請を行うスキームを創設した」と対応を進める考えを示した。

13:15 立憲民主党の階猛氏が、日本銀行による異次元の金融緩和について、「いま地域金融機関の利益が減ってきている一因ではないか」と質問。日銀の黒田東彦総裁は「プラスの影響を及ぼした」と答弁したが、階氏が「（金融緩和が利益減少の一因と）認めないのか」などと詰め寄ると、黒田氏は「認めません」と語気を強めた。

オンライン審議「議論して」

14:25 立憲の奥野総一郎氏は、新型コロナウイルスの感染拡大で国会の定足数が満たさなくなるおそれを指摘。衆院規則を変えることで、コロナ感染者や濃厚接触者に該当する国会議員が「憲法改正をしなくてもオンライン審議に参加できる」と主張した。首相は「各党、各会派において議論していただければと思う」と答弁した。

14:55 初めて予算委員会の質疑に立った日本維新の会の池下卓氏は冒頭、「『総理、総理、総理』ということでは追及いたしませんけれども、しっかりと質疑にお答えをいただければ大変ありがたい」と切り出した。昨年10月の衆院選大阪10区で、立憲の副代表などを務めた辻元清美氏を破って初当選を果たした池下氏が、予算委の場でも舌鋒鋭く政府与党を追及してきたことで知られる辻元氏をあてこすった形だ。

16:20 賃上げ促進策をめぐり、国民民主党の古川元久氏が「赤字法人も賃上げできなければ全体として好循環にならない」と指摘。法人事業税と固定資産税、消費税納税の減免を求めた。首相は、賃上げ企業への補助金や公共事業・公共調達における優遇などに取り組む考えを示した。

気候変動「危機と認識」

16:50 共産党の笠井亮氏は気候変動問題について、「総理の本気度が問われる。気候危機にあるという認識はあるか」と問い詰めた。首相は「気候問題は人類全体にとっての大変重要な課題、危機であると認識をしている」と応じた。

16:55 有志の会の福島伸享氏は冒頭、「4年ぶりに戻ってきた」と切り出した。2017年2月、民進党に所属していた福島氏は国会で森友学園をめぐる問題について、当時の安倍晋三首相を追及し、「私や妻が関係していたということになれば、間違いなく総理大臣も国会議員も辞める」との発言を引き出した。だが、17年10月の衆院選で落選し、21年10月の衆院選で4年ぶりに国政に復帰した。

福島氏は国会で今も森友学園をめぐる問題が取り上げられている現状を踏まえて、「（安倍氏の）答弁から5年たってもまだこういう議論を国会でしているということは大変じくじたる思いだ」と述べた。

さらに、福島氏と財務省との接触を記した文書が開示されていないとして、「私との接触録は全部公開して構わない。秘密にする方が信頼関係が損なわれる。私が財務省の職員と接した応接録を全て出して頂けないか」と求めた。鈴木俊一財務相は「どのような対応が可能か検討させていただきたい」と答えた。

◇

朝日新聞デジタルで詳報しています。